



錦昇
文庫
幽貞
画
種彦
作

侍

二十編下



部

遊
女

二十編上

外題曲多因



外題曲多因

部



遊女

二十一編上



糸昇中様

其由可理

飛空法

松も

赤き

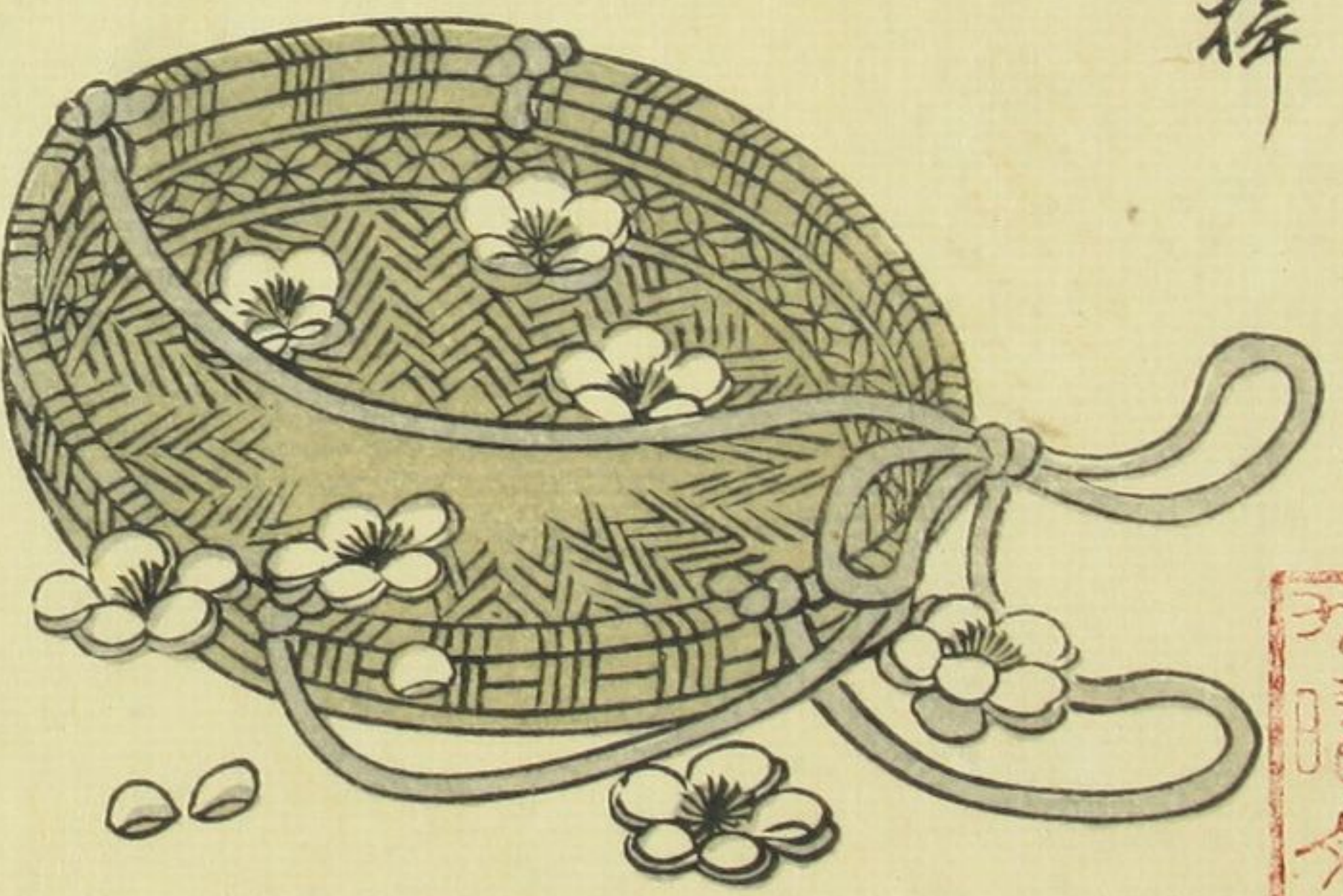
他者

柳多種表

画工

梅塔楼園貞

二千一編の上



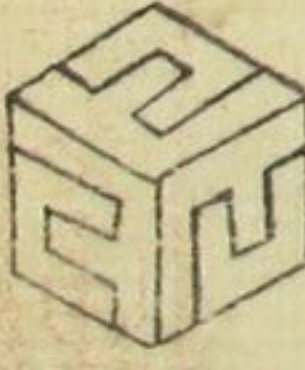
丸印 文庫

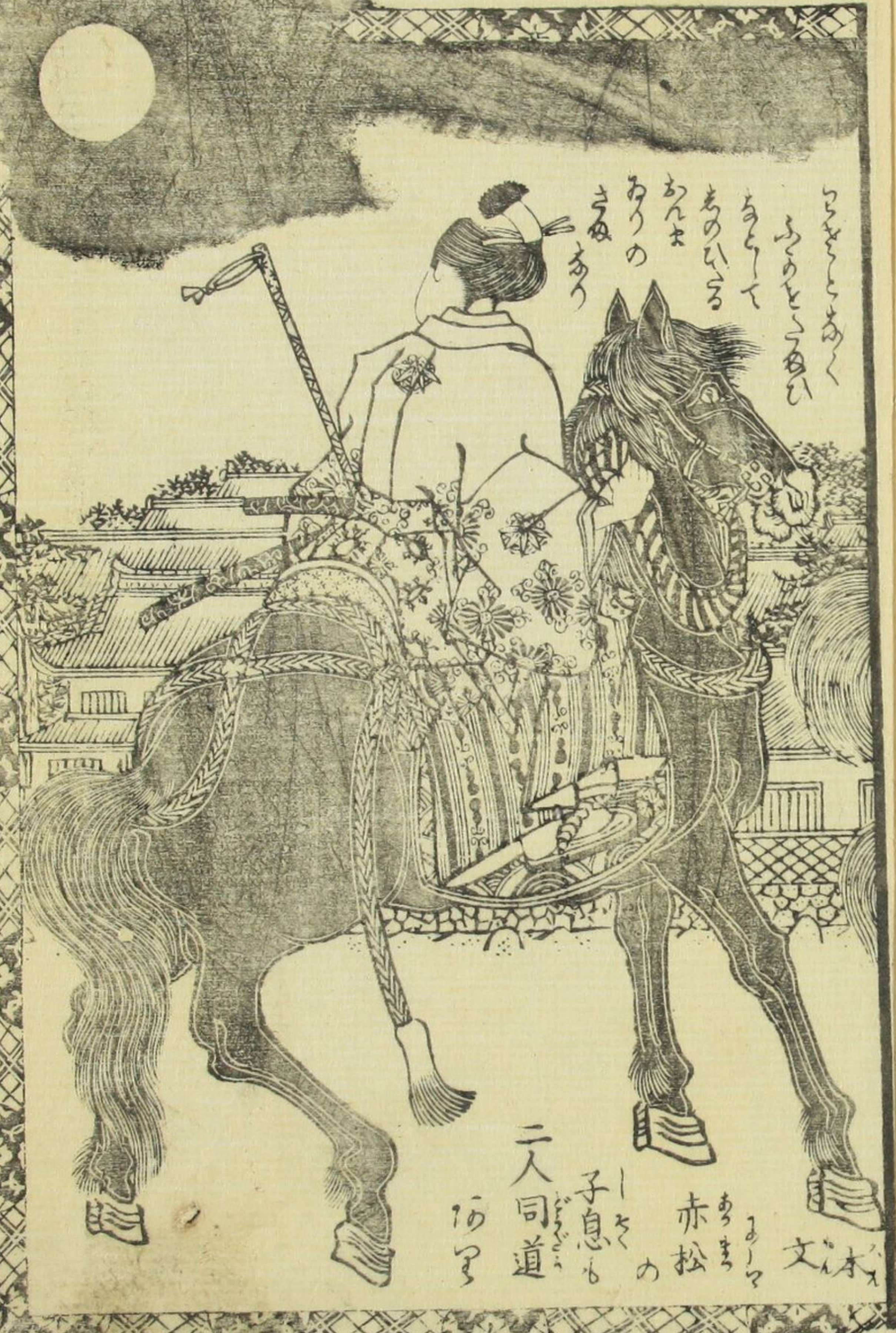
源氏の巻名に牽牛子蒴蘆何りて盡顔あき如何俗きて歌詠せぬ
故と答し由誰のつりさうばあれ程古昔より哥り詠松虫を出さば鈴
虫を採たる何如を詰りて自己賢慧しと誇人も有とむ論説乃是
非を問を擧められ種小取の戯作者の出精も多先師の後涼殿の更衣
に比るる女の名を畫顔と号らまされは在下も松虫といふ惡婦をまうけ
鈴虫の巻は漆貨ふあられど此松虫の松より住を枯毒虫よりて
鳴もとねを軒渠をも催さ猶欠伸を引黛り磯菜の昔の花街はる
吾古木の追福の本文のまを物語の氣を轉る追りて盡顔をの華も持ば
主臭の白湯のやうな物語の氣を轉る追りて盡顔をの華も持ば
由縁の画らしくあられ難る人の有のを志し祓ハ紫のあやふ
倣ふ物より夕霧の巻よかりたれど藤屋のやい噂よもいあまどくあむ

甲子新春



柳亭種彦





つぎつとあへく
ふりてとこぬい
あつて
あひいろ
あたま
あつたの
さぬ
あつ

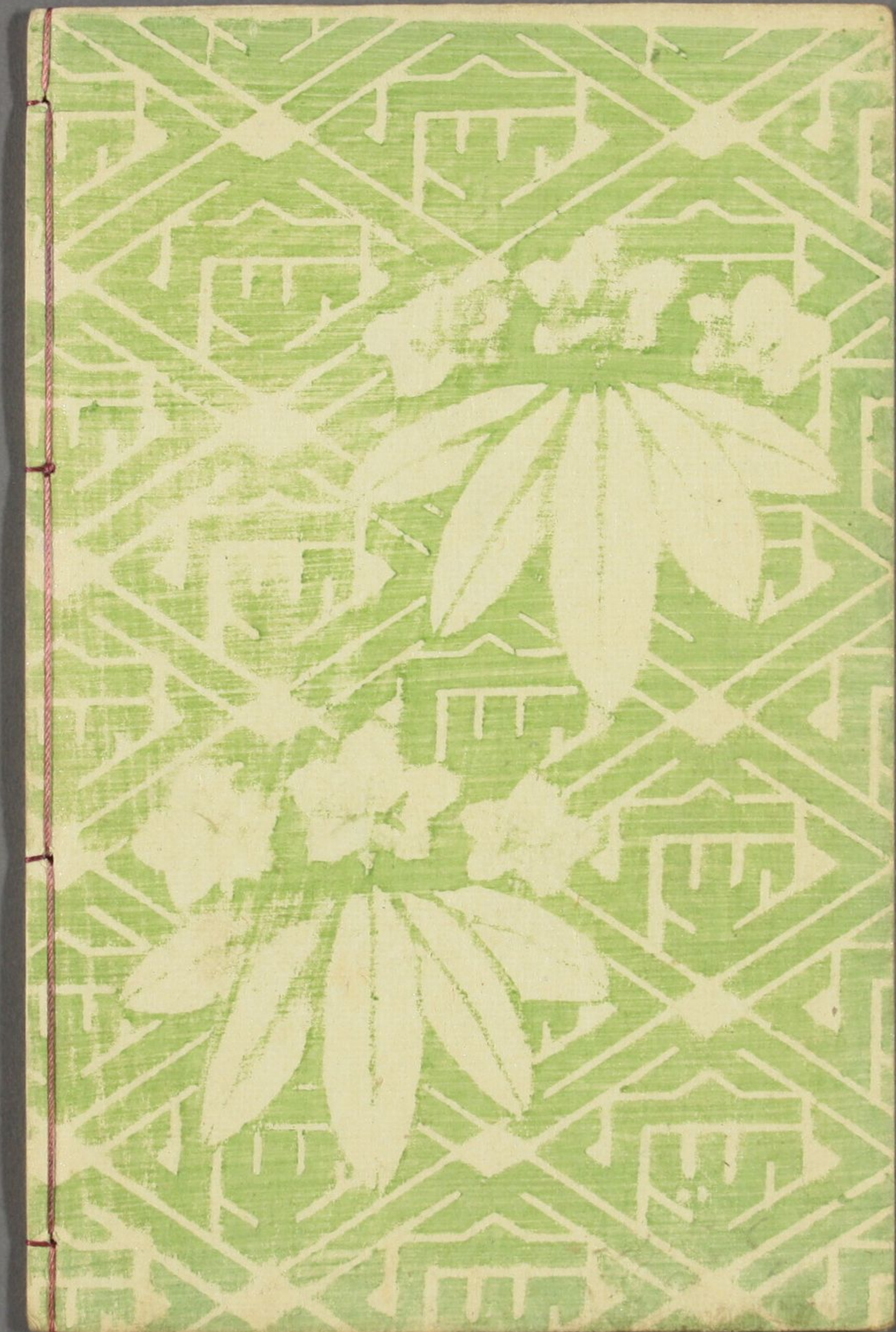
二人同道
子息も
赤松の
文木

此より宵にる画様十二編の下に既
出しこれと脚おりの由有て又守つ



月を
さし
あつ
ふさぬるを
なほしろさよ
この月人々
笛をうた

八月十五夜
雲井丞氏仲
四郎尚久
先將軍
義植公の
御所
小川の
御館へ
参り
なまふ
あつ



錦
昇
文庫

國貞
画

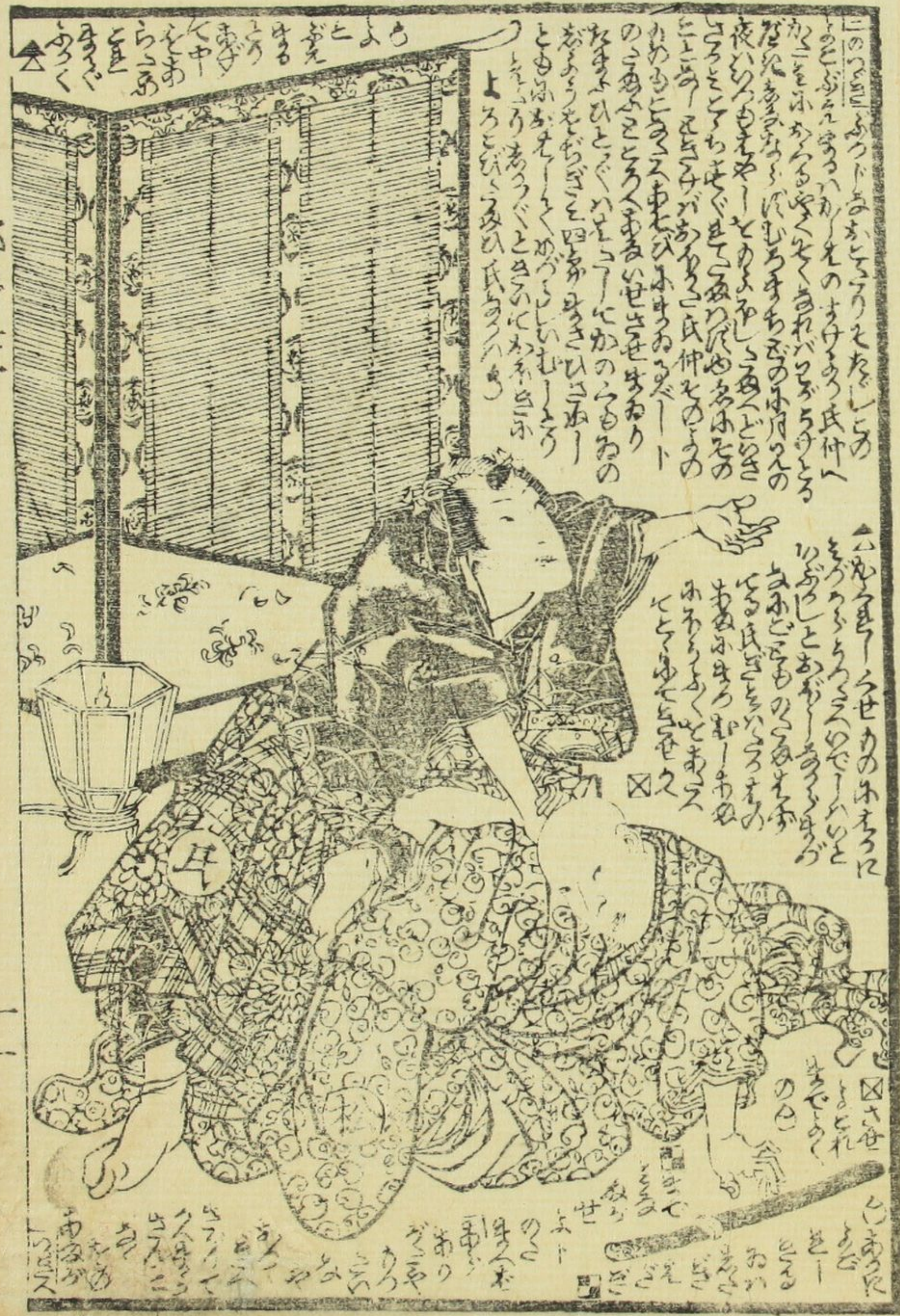
種彦
作

俤



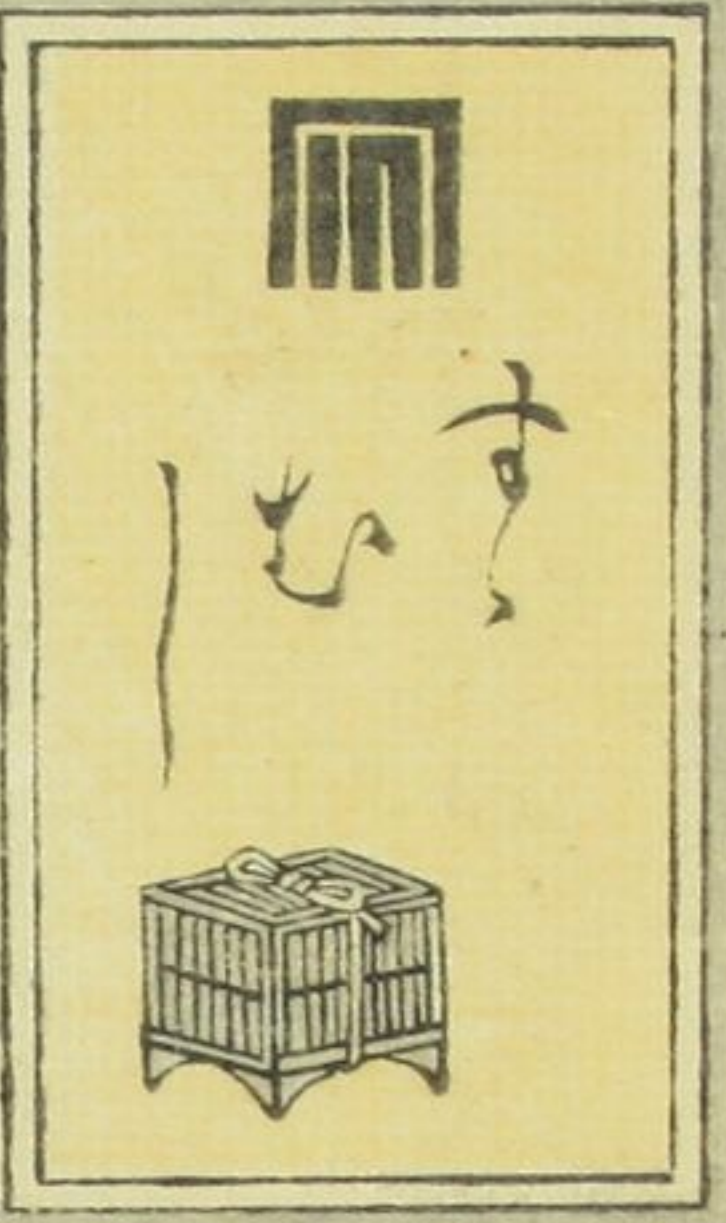
二十一編下





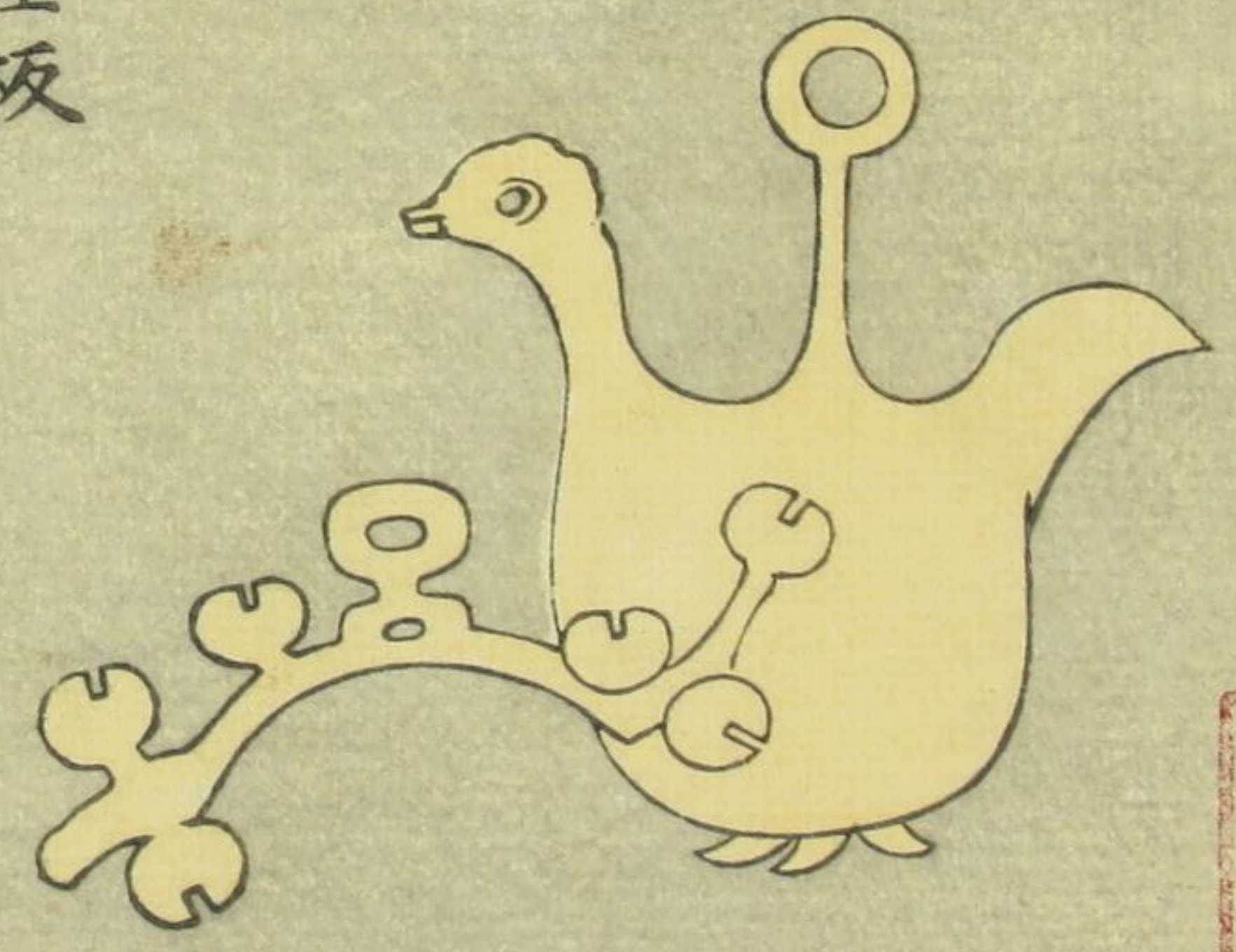
六
十
一

鄙面影 廿二編下



種彦著
國貞画

笑壽屋板



笑壽屋板

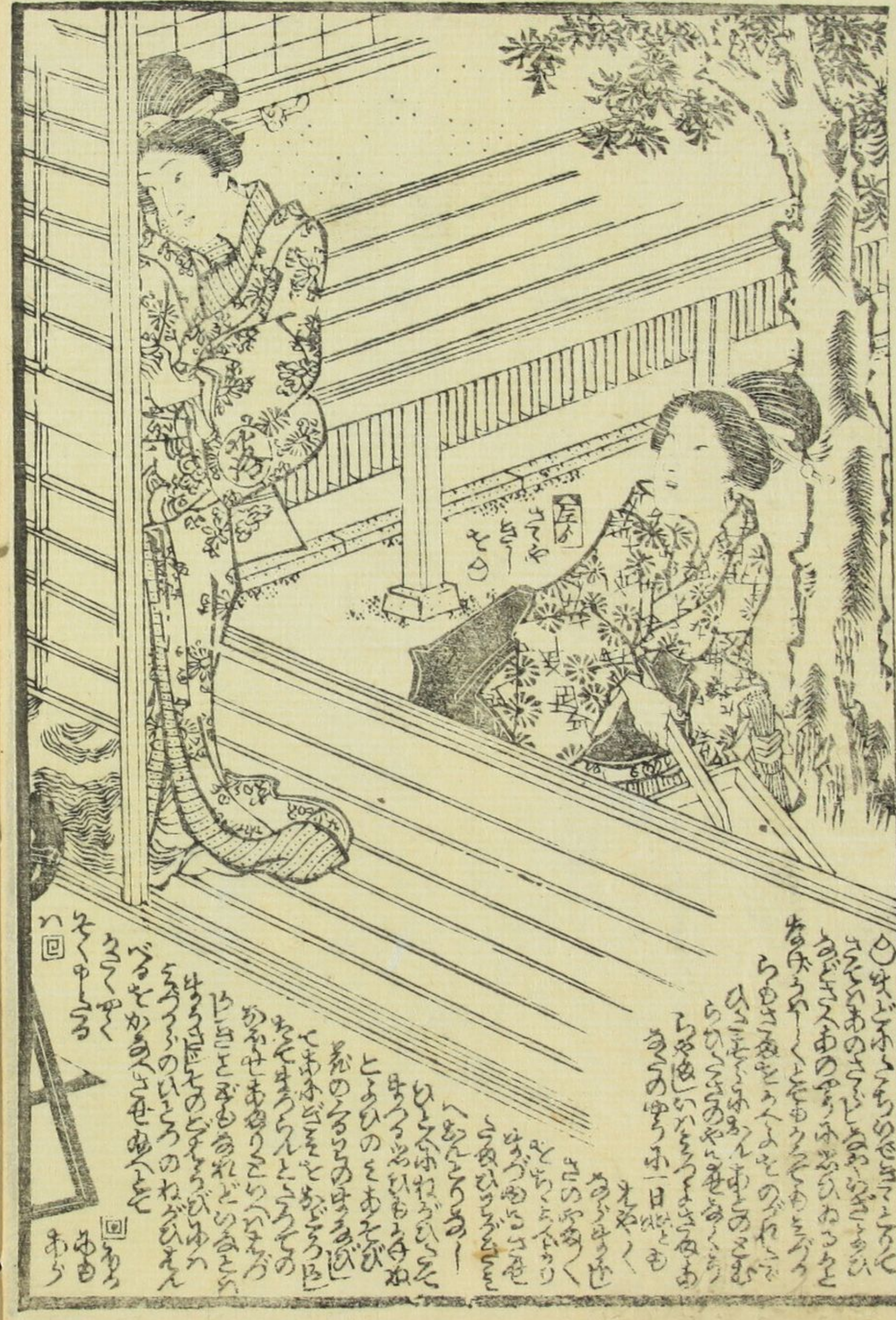




あいつ
めいひ
あそち
こころ
さしあが
あつろく
あひ
あち
あそ
むせぬ
らと
あふ
けつ
まふ
と
あ
らんと
あ

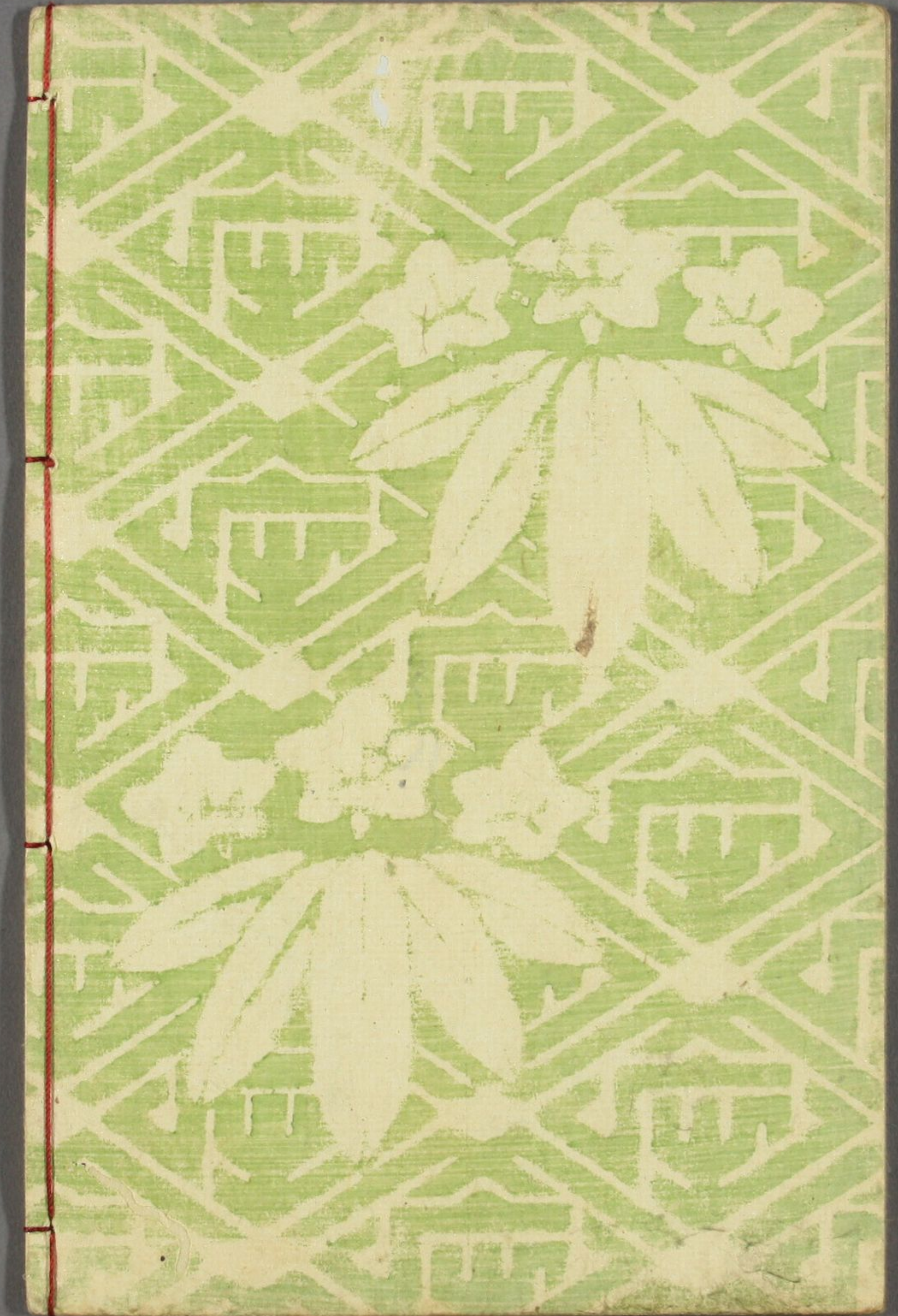
あつろく
あひ
あち
あそ
むせぬ
らと
あふ
けつ
まふ
と
あ
らんと
あ

あつろく
あひ
あち
あそ
むせぬ
らと
あふ
けつ
まふ
と
あ
らんと
あ



あつろく
あひ
あち
あそ
むせぬ
らと
あふ
けつ
まふ
と
あ
らんと
あ

あつろく





夏
由縁
影
あはれ
いこ
ま

廿一編

合十一

えびす屋
ま

